

”半年待てる”患者さんの選択肢／東京女子医科大学病院脳神経外科・林基弘教授

4/9(火) 8:00 配信 

日刊スポーツ

頭を切らずに治すガンマナイフ治療 <27>



「頭を切らずに治す ガンマナイフ治療」

手、首、声のふるえなど、症状として「ふるえ」が起きる病気はいくつかあります。とりわけよく知られているのが「**本態性振戦**」。そして「ふるえ」及び「**固縮**」「**動作緩慢**」「**姿勢保持障害**」など、4大症状の1つとして知られているのが「**パーキンソン病**」です。このふるえでQOL（生活の質）が低下し、本人が生活に不自由を感じているのであれば治療が必要です。

治療は「薬物療法」「**定位脳手術**」、そして**定位放射線治療**の「ガンマナイフ」が一般的に行われています。薬物療法では、興奮を伝達する**アドレナリン**というホルモンをブロックする「**β遮断薬**」を使います。ふるえの残る人には「**抗不安薬**」。また「**抗てんかんの薬**」なども効果があります。

薬物療法でコントロールできない人は、局所麻酔での**定位脳手術**が行われます。頭蓋骨の頂上部分に穴を開けて脳深部の**視床**に電気針を挿入。そして、**視床**の核部分に電気を通して焼きます。すると、患者さんが手術中に手に持っていた**ペンのふるえ**が止まります。

高齢、また、いろいろ薬を服用していて手術適用にならない患者さんは、ガンマナイフ治療になります。穴を開けて行う手術を、穴を開けずに行うのがガンマナイフ治療です。手術で焼く部分にガンマナイフで放射線を照射して治します。ただ、ふるえが消えるのに約半年かかります。手術は即日で効果が出るので、その点に大きな違いがあります。“頭に穴を開けたくない”“半年待てる”患者さんはガンマナイフ治療を考えると良いでしょう。

さらに、ここにきて「**FUS（ファス＝収束超音波療法）**」が行われ始めました。MRIで**視床核部分**を見て、そこに焦点を合わせて超音波を当てると、ピンポイントで破壊できるので、2019年に保険適用になったこともあり、選択肢が増えたといえるでしょう。当科では機能**脳神経外科班**・堀澤士郎医師が中心となり、治療適用を決めてすべて行っています。少しでもふるえが気になる方は、ぜひお尋ねください。（取材＝医学ジャーナリスト・**松井宏夫**）